



SEAMAIL

Newsletter from Software Engineers Association

Volume 11, Number

4-5-6

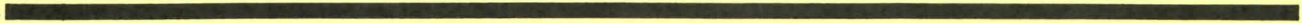
1997

目 次

編集部から

Proceedings of the ISFST'97

Forward	i
Organizing Committee	ii
Table of Contents	iii
論文	1-234





ソフトウェア技術者協会

Software Engineers Association

ソフトウェア技術者協会(SEA)は、ソフトウェアハウス、コンピュータメーカ、計算センタ、エンドユーザ、大学、研究所など、それぞれ異なる環境に置かれているソフトウェア技術者または研究者が、そうした社会組織の壁を越えて、各自の経験や技術を自由に交流しあうための「場」として、1985年12月に設立されました。

その主な活動は、機関誌SEAMAILの発行、支部および研究分科会の運営、セミナー/ワークショップ/シンポジウムなどのイベントの開催、および内外の関係諸団体との交流です。発足当初約200人にすぎなかった会員数もその後飛躍的に増加し、現在、北は北海道から南は沖縄まで、700余名を超えるメンバーを擁するにいたりました。法人賛助会員も30社を数えます。支部は、東京以外に、関西、横浜、長野、名古屋、九州、広島、東北の各地区で設立されており、その他の地域でも設立準備をしています。分科会は、東京、関西、名古屋で、それぞれいくつかが活動しており、その他の支部でも、月例会やフォーラムが定期的で開催されています。

「現在のソフトウェア界における最大の課題は、技術移転の促進である」といわれています。これまでわが国には、そのための適切な社会的メカニズムが欠けていたように思われます。SEAは、そうした欠落を補うべく、これからますます活発な活動を展開して行きたいと考えています。いままで日本にはなかったこの新しいプロフェッショナル・ソサイエティの発展のために、ぜひとも、あなたのお力を貸してください。

代表幹事： 坂本啓司

常任幹事： 荒木啓二郎 高橋光裕 田中一夫 玉井哲雄 中野秀男 深瀬弘恭

幹事： 市川寛 伊藤昌夫 大場充 河村一樹 窪田芳夫 熊谷章 小林修 桜井麻里
酒匂寛 塩谷和範 篠崎直二郎 新谷勝利 杉田義明 武田淳男 中來田秀樹
布川博士 野中哲 野村行憲 野呂昌満 端山毅 平尾一浩 藤野誠治 二木厚吉
堀江進 松原友夫 山崎利治 和田喜久男

事務局長： 岸田孝一

会計監事： 辻淳二 吉村成弘

分科会世話人 環境分科会(SIGENV)：塩谷和範 田中慎一郎 渡邊雄一
教育分科会(SIGEDU)：君島浩 篠崎直二郎 杉田義明 中園順三
ネットワーク分科会(SIGNET)：小林俊明 人見庸 松本理恵
プロセス分科会(SEA-SPIN)：青山幹雄 伊藤昌夫 坂本啓司 高橋光裕 田中一夫 増井和也

支部世話人 関西支部：白井義美 中野秀男 横山博司
横浜支部：野中哲 藤野晃延 北條正顕
長野支部：市川寛 小林俊明 佐藤千明
名古屋支部：筏井美枝子 石川雅彦 角谷裕司 野呂昌満
九州支部：武田淳男 平尾一浩
広島支部：大場充 佐藤康臣 谷純一郎
東北支部：河村一樹 布川博士 野村行憲 和田勇

賛助会員会社：ジェーエムエーシステムズ 東芝アドバンスドシステム SRA PFU
東電ソフトウェア 構造計画研究所 さくらケーシーエス サン・ビルド印刷
富士通 新日鉄情報通信システム オムロンソフトウェア カシオ計算機
キヤノン 中央システム 安川電機 富士通エフ・アイ・ピー
SRA東北 アスキー 新日本製鉄エレクトロニクス研究所 ダイキン工業
東北コンピュータ・サービス オムロン アイシーエス SRA中国 日本電気ソフトウェア
富士電機 ブラザー工業 プロダクト・ソリューション (以上28社)

SEAMAIL Vol. 11, No. 4-6 1997年12月25日発行
編集人 岸田孝一
発行人 ソフトウェア技術者協会(SEA)
〒160 東京都新宿区四谷3-12 丸正ビル5F
T: 03-3356-1077 F: 03-3356-1072 sea@sea.or.jp
印刷所 有限会社錦正社 〒130 東京都墨田区錦糸町4-3-14
定価 1,000円 (禁無断転載)

編集部から

☆

例年通り、秋はイベントが立て続きに押し寄せてきて、事務局兼編集部はてんてこまいでした。

☆☆

ということで、今年の締めくくりは、去る10月末に中国・福建省・アモイ市で開催された ISFST'97 の Proceedings の再録ということにさせていただきます。

☆☆☆

今年の ISFST は、伊藤・Zhong 両プログラム委員長の方針で、通常の論文発表の数を絞り、応募論文の大半を Working Group 討論に回すという形をとりました。

☆☆☆☆

会議参加者に配布された Proceedings は、これらの WG 向け論文もすべて収録して、450 ページ近い厚さになりましたが、ここでは、通常の Session で発表された論文だけを再録しました。

☆☆☆☆☆

4つの WG では、それぞれかなり議論が盛り上がったようですが、その詳細については、いずれグループ・リーダーの方々からの報告が寄せられるのではないかと期待します。

☆☆☆☆☆☆

次号も、また、原稿不足なので、先日香港で開催した Process Improvement Workshop の特集が中心になるでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆

Sponsored by
Software Engineers Association (Japan)
and
The United Nations University/International Institute for
Software Technology (Macau)